

手話歌のライブを楽しむ入居者

施設長と  
大下さん左

# ふくろう新聞

&lt;発行&gt;

特別養護老人ホーム  
淡路ふくろうの郷  
広報委員会洲本市中川原町中川原 番地 1  
TEL: 0799-25-8550  
FAX: 0799-25-8551  
ホームページ<http://hyoufuku.main.jp/fukurou/>

9月15日(土)淡路ふくろうの郷敬老会が開催されました。昨年までは、10月に行われる「ふくろうふれ愛まつり」で節目の入居者にお祝いをしてきましたが、今年からふくろうの郷で敬老会を開催し、それに併せてお祝いさせていただきました。

今年の節目の方は7人おられ、施設の最高齢は98歳。大正9年10月1日生まれの大下実子様です。普段は車椅子で生活されていますが、壇上に上がり大矢理事長より家族の会からのお祝いの品を渡されると、とても嬉しそうな表情をされていました。

また手話歌三線の「たかし&ただし with まもる」の3名にお祝いのステージを披露していただき、入居者にとってとても楽しい1日となりました。(生活援助主任 加野明宏)

9月9日に淡路聴力障害者協会主催の日帰り敬老旅行に、ふくろうの郷から入居者9名、介助として職員3名が参加しました。ニフレル(水族館)や大阪箕面市の観光ホテルのバイキング、温泉を心ゆくまで楽しみました。入居者は「楽しかった」「とても美味しかった」「良い温泉だった」と好評でした。淡路聴力障害者協会の皆様、本当にありがとうございました。(石黒裕規)

## 料理と温泉を満喫！ 淡聴協敬老旅行

参加者、皆が大満足の笑顔  
(観光ホテル前にて)

9月15日に家族の会として初めての試みで学習会を開催し、4名のご家族の参加がありました。内容は、「淡路ふくろうの郷で最期まで暮らしていただくために」というテ

### 最期までふくろうで 家族の学習会

ーマで、職員からふくろうの郷での事例や手続き、看取りの指針などについて、お話をさせていただきました。最初は硬い雰囲気でしたが、次第にほぐれてきて、和やかに意見交換に移りました。

旧優生保護法下で障害者に強制不妊手術が繰り返された問題で兵庫県内の聴覚障害の夫婦2組が28日、国に謝罪と損害賠償を求め神戸地裁に提訴しました。このご夫婦の勇気ある決断を讃えるとともに、多くの方々の思いを背負って、がんばっていただきたいと思います。

愛知県から参加の山崎さんの娘さんは「うちの母は、高齢だが、元気なので、イメーヂができません」。徳島から参加で安藝さんを長年ケアマネとして担当された村田さんは、「安藝さんのご主人もお世話をしてきました。ご主人は病院には入院しないと頑なに拒んできましたが、末期がんによる痛み、苦しみのため最期は病院への入院を希望し、苦しみを軽減して看取ることができました。安藝さんご本人の希望に沿った支援をしていただけるように望んでいます」と要望されました。

ふくろうの郷では、毎年10名近くの方を施設で看取っています。元気なときからご本人の思いに沿った支援を貫くことが私たちの理念、目標です。ご本人はもちろん、ご家族とも日頃から思いを重ね合わせる関係をさらに作っていきけるようにしたいと思ひます。

(相談員 竹原哲章)

## ふくろう物語

### 初田ふみゑさん

初田ふみゑさんは南あわじ市出身、昭和11年生まれで今年82歳になられます。とても明るくパワフルな女性です。結婚はされていましたが、子供さんはおられません。御主人と愛犬ぶうちちゃんと暮らしておられました。

### 淡路聴覚障害者センターとの関わり

10年ほど前から聞こえにくくなり、淡路聴覚障害者センターの要約筆記の派遣や介護保険の在宅サービスを受けるながら生活しておられました。

平成21年にご主人が他界された後も、淡路聴覚障害者センターの支援を受け、また通所サービスや訪問介護を利用しながら愛犬ぶうちちゃんとの暮らしを続けていました。



▲愛犬ぶうちちゃんの写真に笑顔の初田さん

お元気なところは旅行やセンターの行事など催しにも参加され楽しんでおられました。平成25年頃から体調を崩されたたびに入退院を繰り返されました。初田さんの身を案じた弟様が病院と相談され、平成29年から聴覚障害に配慮のある淡路ふくろうの郷の短期入所の利用が始まりました。

笑顔絶やさないように  
若い頃はお酒が好きで嗜んでおられた初田さん。今はお酒は飲まれません。月に一度開かれるふくろう喫茶ではカウntaxー席でしみじみとコーヒーを味わい「おいしい。飲まなやつとれんわ」と茶目つ気たつぷりにおっしゃられるので職員も他の入居者さんもいついつい笑顔になります。これからも初田さんが日々笑顔で過ごされるように支援を続けたいと思います。

(生活援助員 堀田 喜子)

## 9月誕生日のお祝い



黒崎時安さん 89歳。

9月2日の昼食に大好物のお好み焼きを希望。自分で作られ、美味しそうに食べられていました。他の入居者さんや職員の分も楽しそうに焼かれていました。途中、しんどそうな様子も見られましたが、皆さんから「美味しい」と、喜んでもらい、嬉しそうな笑顔を見せられていました。



安藝正枝さん 83歳。

普段は部屋でゆっくり過ごされる時間が長いのですが、今日はリビングに出て来られ、他の入居者の皆さんにお祝いされ楽しそうに笑顔でおしゃべりされておられました。お祝いのケーキも「美味しいと」言われ喜んで食べておられました。



岸本久美さん 88歳。

「誕生日にはケーキが食べたい」とのご希望があり、職員と外出しましたが、店に到着すると、「私だけ食べてもつまらないし、買って帰って皆で食べたい」「おいしい食べたら美味しいわよ」と話され、みんなで食べられるようにお菓子をたくさん購入されました。



## 全国言語聴覚障害者 福祉研究交流集会(東京) 提出しレポート概要

10月20日、21日と2日間にわたって東京で開催される全聴福研にふくろうの郷から2つのレポート報告をします。

### ①「聴覚障害に配慮のある施設として出来る支援」

#### 谷口さんのケース

谷口さんは香川県出身の83歳男性で生まれつきのろうあ者です。認知症が進み、入所していた施設や入院していた病院では身振りやイラストカードなどでのコミュニケーションがうまく伝わらず、もどかしさから立腹されることがありました。食事でも食べられず痩せていく谷口さんを身内が心配され、香川県聴覚障害者福祉セ



▲ユニット職員と一緒に  
安心顔の谷口さん

ンターへ相談、ふくろうの郷年、持病の為に管理医より食へ入居されました。

入居当初は、落ち着かない様子が続きましたが、手話で身体状況や職員のあたたかいふれあいの中で徐々に距離を縮めていきました。特に同郷のろう者との関わりも大きかった。今回はその中から2つの影響したようです。日ごろから事例について報告します。

ら時間を見つけてはコミュニケーションを取り信頼関係を築いていきました。

香川県にふくろうの郷のようなろう者のための特養や老健などの施設があれば、地元で、古くからの友人たちと一緒に暮らせていたでしょう。今後、香川への里帰りや仲間との交流の機会を設けられるよう、谷口さんが望まれる支援をしていきたいと思

### ②「食事制限が必要な方への支援における多職種連携」

(生活援助員 川満 和則)

淡路ふくろうの郷には、近

の不安定症状が強くなり、日々の生活の様子が変わりました。水分摂取制限を守りながら、ご本人と向き合い支援してきた経過を報告します。

(生活援助員 堀田 喜子)  
(管理栄養士 秦 奈津子)

ふくろうの郷、安全衛生委員会では介護職員の腰痛予防と入居者の安全のため「持ち上げない介護」に向けての取り組みを行っています。

9月26日、委員会のメンバー5名が介護ロボットを積極的に取り入れている西宮の特別養護老人ホーム甲寿園様の施設見学に行かせていただきました。ロボットを取り入れ職員みんなが使いこなせるようになると、入居者が楽で安心、安全、また職員の介護の負担軽減につながるなどメリットが多いことなど教えていただきました。今後も介護機器展なども見ながら当施設として取り入れられる方法を考えていきたいと思



▲介護用リフトを視察中



▲クリスマス会にてケーキを食べられる広島さん。療養食ですが、ケーキを楽しめるように工夫して提供しています。

## 淡路聴覚障害者 センター便り

洲本市港 2-26  
洲本市健康福祉館 3 階

10月3日、社会訓練

事業として総勢46名で、姫路市内にある「就労継続支援B型事業所」は「まふくろうの家」を見学しました。初めに設立当初より管理者をされていた大塚登代子様と4月より管理者となられた芦田邦子様より設立の経緯や現在の仕事の様子をお話いただきました。

### おにぎりが人気の弁当

設立時よりおにぎりの販売をされていましたが、お客様の要望もあり、厳しい保健所の申請をクリアし、お弁当の販売も始めました。月曜から金曜まで市役所やろう者が働く保険会社などでお弁当の移動販売をしています。なかでも人気は設立当初

## はりまふくろうの家見学・弁当の販売に興味津々



▲お弁当の移動販売に興味深く聞く参加者

から販売しているおにぎりでも、お米がおいしいと評判だそうです。

### 幅広い仕事を開拓

淡路のおこりの家からの参加者も多く、同じB型事業所ということもあり、皆さん参考になることはなにか興味深く見学されました。「お弁当以外にも、お菓子のかりんとう作りや割りばしの袋詰め、北海道産の昆布の袋詰めの仕事もされています。「移動販売では一般の方ともお話しできるのでいいと思った」とおこ

ろの家通所者の巖末子さん。

また、事業の説明では姫路市では65歳を過ぎると介護保険優先となり、通所の日数が限られたり通所できなくなるなど制度の壁があり、まだまだ働きたい人が通所でない、運営にも支障がでるなど課題が残っているとのこと。毎年10月のふくろうふれ愛まつりにも参加いただいております。「またお会いしましょう」と言いながら事業所をあとにしました。(岡本 久子)

9月18日、第4回社会生活教室を開催。管理栄養士の厚美ミエ氏より、パッキングキングを教えて頂きました。耳慣れない「パッキングキング」ですが、この方法は災害時、ガスや電気がとまり調理できなくなった時に、カセットコンロ・鍋・水・高密度ポリエチレンがあれば出来るので、覚えておくとても役立ちます。食材によって時

## 簡単においしく パッキングに挑戦



初めての  
参加者  
方法で調理する

間は違いますが、15分〜30分で出来上がります。この日は4班で手分けをして、焼きそば・蒸しパン・ひじきの煮物等、12品を作りました。参加者からは「初めての調理方法に驚いた」「手軽に出来そうなので、家でも作ってみたい」「来ていない人にも教えてあげたい」と感想をいただきました。(岡本 久子)

センターには、手話通訳者の派遣と、要約筆記通訳者の派遣があります。

病院を受診する時「医師や看護師も筆談で対応してくれるから大丈夫」と思っていた人が、要約筆記通訳を利用して「診察の内容や、自分の病状についてよくわかった。筆談も頼みにくい時があったから、要約筆記を頼んでよかった」という声が聞かれます。

要約筆記通訳者は、説明を全て書いて伝えてくれるのですぐに理解でき、必要な情報が得られます。ぜひ、ご利用下さい。

(高木 恵理)



書いて伝えます  
要約筆記通訳者



## 中川原高齢者・障がい者地域 ふれあいセンター



☎656-0002

兵庫県洲本市中川原町中川原 222-2  
TEL 0799-28-0990

### ひとり暮らしの方に

### お弁当をお届けしました

去る9月4日(火)、恒例の中川原地域のひとり暮らしの方々へデイサービス桜ヶ丘に通っている方々との食事を開催する予定でしたが、台風の接近に伴い、残念ながら中止となりました。

当日は皆さんと一緒に食事をして、午後からは「歌さんぽ」の方々に三味線の合奏をしていただくなどの楽しい計画をしていました。中止となり、せめてお食事だけでも、前日から仕込んだ弁当を、雨風強い中、民生委員の皆様方にお世話になりひとり暮らしの方にお届けさせていただきました。来年は、是非、桜ヶ丘でお食事を開いて、み

なさんと一緒にお食事や交流を楽しめたらと思います。民生委員の皆様方ご協力ありがとうございました。



▲メニューは、赤飯、さんまのしそ巻きあげ、茶碗むし、炊き合わせのそぼろあん、かぼちゃの寒天よせ

(デイサービスセンター桜ヶ丘  
管理者 竹内美菜子)

## 第13回ふくろうふれ愛まつり

平成30年10月28日(日)

10:00~15:00

場所：淡路ふくろうの郷

中川原高齢者・障がい者  
地域ふれあいセンター

お誘いあわせの上、  
ご参加ください



▲締めは焼きそば 早く食べたいと  
気持ちがいちやみちや

玉ねぎの収穫が終わり、その後の根切りは地域の方々に手伝っていただき、終わらせることが出来ました。農業班のお疲れさまで、兼ねていたので、手伝っていただいた地域の方々にも参加していただき、一緒に楽しい交流の時間を過ごしました。バーベキューでは、沢山のお肉、そして自分たちで作った玉ねぎ、野菜、皆で作ったおにぎりや焼きそばまで、お腹一杯食べて満足そうでした。

おのころの家では9月12日(水)に中川原ふれあいセンター内ふれあい工房で利用者が楽しみにしていたバーベキューを行いました。

## 玉ねぎ収穫お疲れさま会「バーベキュー」



▲ジェスチャーで一生懸命に  
伝えようと頑張っている岡本さん

手作りのしそ・梅ジュースも好評でした。パン食い競走では必死になってパンを取ろうとする顔が可笑しく見ている人達も楽しんでいました。ジャンケン大会では、勝ち進んでいく人を自分の事のようにならないうる様子にとて微笑ましく思えました。伝言ゲームはジェスチャーだけで相手に分ってもらおうという一生懸命、体全部を使って表現している姿は、とても可笑しく、周りの人達も楽しみながら見ていました。

(おのころの家支援員  
小松 美枝)

### ～玉ねぎ作付面積は品種3種で100a目指す～

おのころの家農業班は、平成30年度下半期の玉ねぎ栽培作業入っています。9月17日より苗床作業が始まり、玉ねぎ品種は昨年度と同様で、初めに極早生20a、次に早生20a、そしてターザン60aを11月から手植え予定です。がんばろう！



▲真剣な表情で必死にパンに食いつくみなさん

## 神戸事業所 安心して暮らせる 福祉施設を!!

共同作業所 神戸ろうあハウス

神戸ろうあハウス デザイナービスセンター

〒652-0897 兵庫県神戸市兵庫区駒南通5-4 西高架下16号  
TEL & FAX … 〇七八・五七九〇七五五

## 「沈黙の50年」 ～人としての尊厳をともに～

9月24日(祭)に手話言語の国際デー記念イベント演劇「沈黙の50年」が兵庫県中央労働センターにおいて開催されました。参加者は321名と立ち見の出る状況でした。



映画「ゆずり葉」でお馴染みの「オフィス風の器」主宰・庄崎隆司氏、「岐阜ろう劇団いぶき」代表の河合依子氏、奥田しのぶ氏、また、ろう俳優でキャスターの金子真美氏、風の器のスタッフの古川鈴子氏をお招きして、手話俳句、

手話ポエム。そしてメインの演劇「沈黙の50年」～人としての尊厳をともに～を演じていただきました。

演劇の題材は「旧優生保護法」により、神戸市の高木さん夫婦と明石市の小林さん夫婦が説明も合意もないまま強制された断種手術を受けさせられ苦しみ耐えてこられた体験が、劇として再現されました。題材はもとより、普段ではみられない方たちの共演と演技のすばらしさに参加者は胸を打たれ感動で涙をぬぐう人もいました。演劇の後は、トークショーとして二組のご夫婦から当時の人権を無視した非道な仕打ちと、今まで語ることができなかった苦悩をお話いただきました。9月28日、神戸地裁にて提訴されます。国が犯した大きな過ちです。高齢のご夫婦が勇気をもって立ち上がったのです。もっともつと支援の輪を広げていくこと、そして人としての尊厳ある暮らしを支える事業所の建設運動をすすめることが私たちの使命でもあると痛感しました。(神戸施設建設委員会事務局 眞木崇江)



### 神戸施設建設募金

**5,000万円突破!**

2018.9.20現在 募金合計額

**50,603,251円**

(プレート募金 86人)

目標1億円まで、あと

**49,396,749円**

## 10月・11月 ふくろうの暮らし

- 10/23 (火) 回想法
- 10/26 (金) ふくろう大学料理講座
- 10/28 (日) 第13回ふくろうふれ愛まつり
- 11/5 (月) ふくろう理髪店  
おのころ屋パン販売
- 11/6 (火) 入居者誕生日会
- 11/9 (金) ふくろう工房ちぎり絵
- 11/13 (火) ふくろう大学書道講座
- 11/20 (火) 入居者自治会懇談会  
ふくろう大学絵手紙講座  
おのころ屋パン販売
- 11/21 (水) ふくろう喫茶



☆入居者グループレクレーション原則毎週水曜日  
☆誕生日のお出かけ、買い物随時

## ふくろうの郷見学予定

- 10/25 淡路市人権教育研究協議会様 20名
- 11/4 多可町社会福祉協議会様 50名
- 11/16 姫路市安富民生委員児童委員協議会様 17名

## 介護サポーター研修

身近な方のために介護の勉強、体験をしてみませんか? 経験不要・お気軽に参加ください。

**日時 12月15日(土)**

**10時～16時半**

車イス移乗体験・ベッドメイキング・食事介助・認知症・聞こえについて・施設の案内等

**参加費無料：申し込みは淡路ふくろうの郷へ**